

勢いのある中部の体育 ～ はずむ心 豊かな学び 確かな力 ～

1 研究の仮説

- ◇ 友だち・教師・学習の場やルール・教具などとの関わり合いと学び合いを重視した学習を展開していけば、いろいろな動きや技能・知識を身に付け、体力の向上を目指すとともに、自ら学び、自ら考え解決する力を身に付けた子どもを育成することができるであろう。
- ◇ 子どもの発達段階に応じて、身に付けさせたい力を明確にし、運動の特性（動きのおもしろさ）にふれ、楽しさを味わう単元構成や学習過程の工夫を行うなど、指導法や評価を工夫・改善することで、「わかる喜び」「できる喜び」を感じられるであろう。

2 研究の視点

- ◇ ねらいの明確化と学習過程の工夫
 - ・ねらいを明確にした指導（単元を通して育てたい児童像（ゴールイメージ）の明確化）
 - ・「習得・活用・探究」型の授業の追究
- ◇ 指導法の工夫と改善
 - ・運動の特性（動きのおもしろさ）にふれ、楽しさを味わう場の設定や教具の工夫
 - ・人、もの、こととの豊かな関わりを工夫した学習展開
 - ・「わかる喜び」「できる喜び」を味わうことができる支援の在り方
（「資料提示」「示範」「助言・補助」「賞賛」「環境づくり」「発問の工夫」など）
 - ・ねらいを達成するための体育的言語活動の充実
 - ・「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を位置づけた指導法の工夫
 - ・ICTの効果的な活用
- ◇ 学習評価の工夫
 - ・体育ノート・学習カード等の効果的な活用
 - ・アンケートや振り返りを活用した授業評価と授業改善

3 本年度の主な活動内容

- 4月18日 総会（役員改選、本年度の研究計画について等）
- 6月 6日 一斉研
 - 講義「新学習指導要領に基づくこれからの体育学習」
三朝町立西小学校 生田優介
 - グループ別研修会
 - ・陸上グループ：研究の方向、今後の計画
 - ・体づくり・表現・保健グループ：前年度までの「成果・課題」の確認
- 8月 1日 一斉研
 - 実技研修「新学習指導要領に基づくこれからの陸上運動」
鳥取市立大正小学校 圓山英俊教諭
 - グループ別研修会
- 10月10日 一斉研（授業研究会）
 - 3年「組み合わせランド」（体づくり運動） 授業者 秋下岳志（三朝西小）
- 10月26日 第56回中四国小学校体育研究発表大会 岡山大会
- 2月 6日 一斉研
 - 本年度研究のまとめ、31年度の研究の方向について
- ◇ その他 研究成果刊行

実践事例 1 保健グループ

『かかわり合い、主体的に課題解決に向けて取り組む保健学習』 ～生活と結びつく保健学習を通して、けがの防止に努める子どもを育てる～

北栄町立大栄小学校 小谷 将人

1 テーマ設定の理由

本単元「けがの防止」では、けがの発生要因や防止方法について理解できるようになることや、けがの簡単な手当てができるようにすることをねらいとしている。けがや交通事故は児童にとって身近であることを理解し、その防止に努める態度を育んでいきたい。

保健グループは研究テーマを『かかわり合い、主体的に課題解決に向けて取り組む保健学習』としている。そこで、ペアやグループなど友だち同士でかかわり合う学習形態を意図的に取り入れたい。また、児童の実態として、学習を生活と結び付けるという意識がもてないことがある。そこで本テーマを「生活と結びつく保健学習」とした。学習のなかで自分の生活する学校や地域の写真や動画を用いることで、児童の関心を高めるとともに生活との結び付きを高め、より主体的に学習に取り組むことができる手立てとなるのではないかと考え実践に入った。

2 研究の視点

(1) 保健学習における「習得・活用・探究」型の授業の追及

習得した学習内容を活用する時間や、児童の発言や振り返りから探究的に学習が進められる時間を確保するために、指導者の保健指導を端的に行う。

(2) 児童の課題解決につながる実験・実習などを取り入れた指導法の工夫改善

自分たちの学校や地域の写真や動画を用いた学習を行うことで、児童が関心をもって学習に取り組み、自身に身近な課題であることを実感させた学習となるようにする。

養護教諭と連携を図り、校内のけがに関する統計を用いることや、けがをしたときの簡単な手当てを行う実習を行うようにする。

(3) ワークシートなどを用いた次の学習につながる評価と指導の工夫

本単元では、毎回の学習内容や自分自身の振り返りが見られるような1つのシートにまとめたワークシートを作成した。そうすることで、習得した知識を用いながら次の活動や学習に活用することができたり、児童が単元の見通しをもったりすることができ、つながりを意識した学習になると考える。

3 研究の実際

(1) 保健学習における「習得・活用・探究」型の授業の追及

(単元の流れ)

	1	2	3 (本時)	4
主なねらい	事故やけがは人の行動と周りの環境が原因で起こることを理解する。	交通事故を防ぐためには、危険に早く気づき、正しい判断をして安全な行動をとることや、環境を安全に整えておくことが大切であることを理解する。	けがや事故、事件から身を守る方法には、安全な行動をとることや環境づくり、危険を避けることが大切であることを理解する。	実習を通して、簡単なけがの手当てができるようになる。

主な学習活動	・自身のけがの経験を通して、その原因を考える。 ・事故やけがは人の行動や周りの環境が原因であることを理解し、学級の児童のけがの原因を、人の行動と環境という視点で考える。	・生活の場面絵から隠れた危険を探し、交通事故を防ぐためには何が大切なのか考える。 ・危険予測トレーニングを行い、隠れた危険を予測し、その対応策についてグループで考える。	・生活の場面絵から隠れた危険を探し、けがや事故、事件などを防ぐためには何が大切か考える。 ・学校や地域の生活風景を動画で見て、隠れた危険を予測し、対応策と危険を避ける方法について考える。	・けが人がでたときの対処方法について考え、簡単なけがの手当てのしかたを練習する。
--------	---	---	--	--

本単元は全4時の構成とした。主な学習活動にあるような話し合いや演習といった活動を中心として行い、友だち同士でかかわり合う時間を多く確保することを重点に置いて学習を進めた。

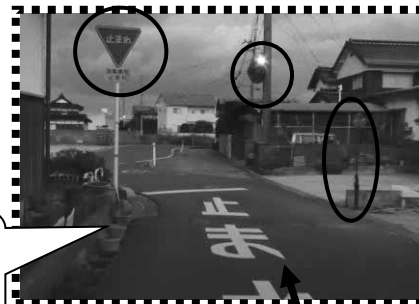
第1時ではけがや事故の発生原因を理解するため「習得」に重点を置いて学習を進め、第2時・第3時では第1時で習得したことを用いて考える「活用」、そして「探究」に重点を置いて学習を進めた。第4時では、けがの手当てに関する知識の「習得」をし、それを「活用」して演習等を行った。

(2) 児童の課題解決につながる実験・実習などを取り入れた指導法の工夫改善

各学習の導入で児童の関心を高めたり、自身の生活とのかかわりが意識できるように、けがや事故の体験を話し合ったり、養護教諭と連携して校内のけがの統計データを提示したりした。学校内でけがの多かった場所の上位は運動場。それに次いで多かったのは体育館や中庭、教室や廊下周辺であった。

前時ではさまざまな場面で起こる事象から、危険を見出す演習をたくさんできるように「HONDA 危険予測トレーニング」の動画を用いた。

児童の通学路を映した動画の一部。丸で示した大小の2つのミラーや看板があることから、この場に潜む危険について考えていた。



本時でも同様の流れで、自分たちの身近な場面の動画（学校や校区内の普段の生活風景を映した動画）を見ることを通して、ありふれた生活のなかにも危険があることに気づき、それを避ける方法について考えた。

学習展開を前時と同じ流れで行うことで、学習がスムーズに行うことができ、個人で考えたり、友だちとかかわりながら考えたりする時間の確保につながった。また、児童自身が知っている身近な生活の動画を流すことで関心が高まる様子があり、一人一人が主体的に学習に取り組むことにつながった。

映像を見て隠れた危険を探す際には、「もしかしたらこういう危険が潜んでいるかもしれない」という予測を持ちながら見ることを意識するよう事前に伝えた。

話し合い活動では隠れた危険と対応策について考えた。予測した危険も紹介し合うことで、自分の気づかなかった危険についても知ることができ、身の回りにも隠れた危険があるということが実感できた。また、その対応策を考えることは、普段の自分の生活の安全にも直結すると考えられる。



身近な生活場面の動画を見て、隠れた危険を見つける。



自分が見つけた危険と、その対処についてグループで話し合う。

(3) ワークシートなどを用いた次の学習につながる評価と指導の工夫

主な学習活動では自分の考えたことをワークシートに記入させた。その後のペアやグループでの話し合い活動では、自分の考えを紹介する際にワークシートを用いることで、誰もが自分の考えを伝えられるようにした。また、これまでの学習内容と本時の学習を照らし合わせられるワークシートにして、振り返りを記入させた。その際に、第1時での学習で学んだ「人の行動」（心と体の調子）と「環境」という言葉をキーワードとして用いさせたり、普段の自分の生活とも関連させたりして振り返りを行うように指導した。そのため学習中や振り返りを書く際に、前時までの学習を見返しながら活動する様子が見られた。また、主な学習活動や振り返りの部分を用いて本時のねらいに迫っているかどうか正確に評価する材料に用いた。

<ワークシート>

<第1時>

<第2時>

<第3時>

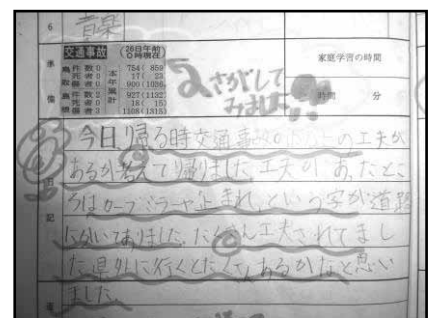
<第4時>

3 成果と課題

【成果】

養護教諭に協力してもらい、保健室を利用した児童のけがの統計を「けがした時刻」「けがした場所」「けがの種類」という3つの項目を児童に提示した。その統計をもとにけがの多かった時間と場所の動画を見て、隠れた危険を探してみようという学習の流れを作ることによって、自分の生活とのつながりをもたせ、児童の課題解決につながる学習の流れを作ることができた。

児童のなかには自主的に「自分の通学路にある事故を防止する工夫」という内容の日記を書き、事故の件数などを自分なりに調べている子もあった。学習の中で、地域の中の自分の身近な生活の動画を用いたことで、自身の生活と結びつけて考えるきっかけを強められたのではないかと考える。



【課題】

学習で用いた学校や地域などの児童の身近な生活場面の動画は、わかりやすい危険（校内の場合だと、教室からいきなり飛び出してくるなど）から、ほかの人とぶつかってけがをするかもしれないという予測を立てることは容易で、その対応策も考えやすいものだった。しかし、隠れた危険を予測することはやはり難しいようで、自力で考えが浮かばない児童もいた。また、けがや事故などはいつ、どんな状況下で起こるかわからないということをふまえると、さまざまな動画でより多くの事象を含んだ映像から多面的・多角的に思考をめぐらす演習を多くとる必要性を感じた。そうすることで、予測することが難しかった児童も危険を回避するための方法を学ぶ機会が増え、学習のねらいを達成することによりつながったのではないかと考える。

第3学年「体づくり運動」の実践を通して

三朝町立西小学校 秋下 岳志

1 研究テーマ

- ・進んでいろいろな動きに挑戦することで運動の楽しさや喜びを味わう
- ・自己の課題を知り、その解決のために運動の仕方を工夫するとともにそれを他者に伝える

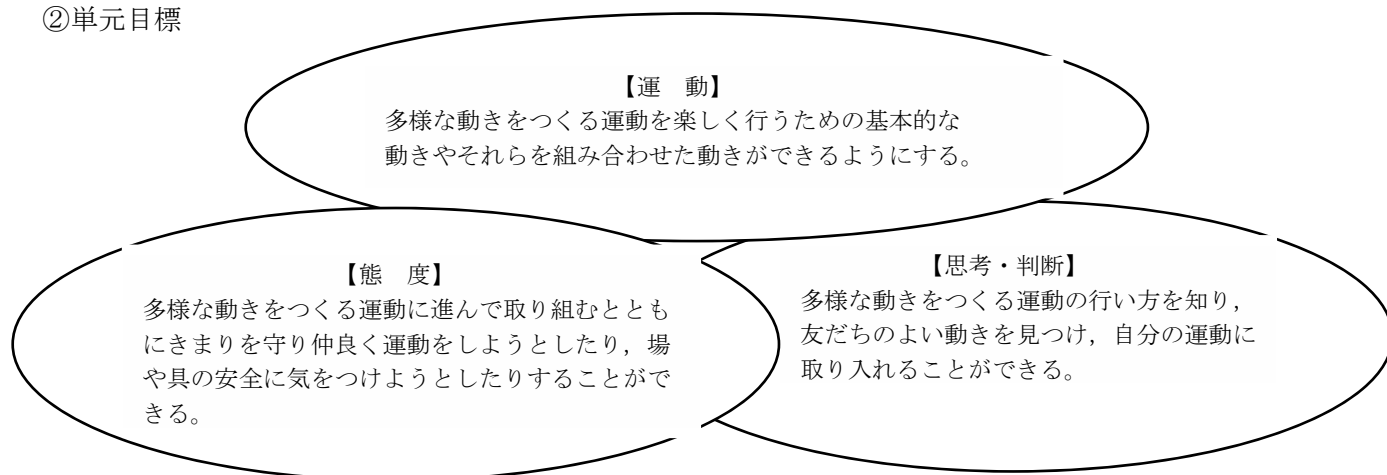
2 研究の視点

- ねらいの明確化
- 指導法の工夫・改善（伝え合いの工夫）
- 評価の工夫
- 児童が興味関心を抱き、かつ効果的な体の柔らかさを高める運動について

3 研究の実際

①単元名 体づくり運動「〇〇しながら〇〇しよう」

②単元目標



③学習内容の系統性

第1・2学年	第3・4学年	第5・6学年
A 体づくり運動 【イ 多様な動きをつくる運動遊び】 体のバランスをとったり移動したりする動きや用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを通して、体の基本的な動きを総合的に身につけること。 (ア) 体のバランスをとる運動遊び (イ) 体を移動する運動遊び (ウ) 用具を操作する運動遊び (エ) 力試しの運動遊び	A 体づくり運動 【イ 多様な動きをつくる運動】 体のバランスをとったり移動したりする動きや用具を操作したり力試しをしたりする動きを意図的にはぐくむ運動遊びを通して、体の基本的な動きを総合的に身につけるとともに、それらを組み合わせで動きを身に付けること。 (ア) 体のバランスをとる運動 (イ) 体を移動する運動 (ウ) 用具を操作する運動 (エ) 力試しの運動 (オ) 基本的な動きを組み合わせる運動	A 体づくり運動 【イ 体力を高める運動】 「多様な動きをつくる運動遊び」や「多様な動きをつくる運動」で身につけた動きや動きの組み合わせをもとに、体力の必要性や体力を高めるための運動の行い方を理解し、自己の体力に応じて体力づくりが実践できるようにすること。 (ア) 体の柔らかさ及び巧みな動きを高めるための運動 (イ) 力強い動き及び動きを持続する能力を高めるための運動

④単元の流れ及び評価計画

	1	2	3	4	5	6（本時）	7
主な ねらい	学習の進め方を 理解しよう	運動を楽しみながら多様な動きの感覚を味わう。					自分の体力に応 じた運動を選ん で取り組もう。
核となる 学習内容	・新体カテストの 結果について ・学習の進め方、 ねらいの確認	・体のバランスをとる運動 ・力試しの運動	・体を移動する運動 ・用具を操作する運動		基本的な動き を組み合わせ る運動		これまで行った 動きをグルーブ で選択して取り 組む。
	【オリエンテーシ ョン】 ・新体カテストの 結果を基に自己の 体力を知る。 ・学習の見通しを もつ。 ・道具の準備や片 づけ方を知る。 ・体ほぐしの運動 を行う。	体ほぐし運動 ワンミニッツエクソサイズ					
		めあてを確認する。					
		○全員でそれ ぞれの運動を 行う。 【体のバラ ンスをとる運動】 【力試しの運 動】	○グルーブ に分かれて、 それぞれの 運動を行う。 ※動きのポ イントを確 認する。 【体のバラ ンスをとる 運動】 【力試しの 運動】	○全員でそれ ぞれの運動 を行う。 【体を移動 する運動】 【用具を操 作する運動】	○グルーブに 分かれて、それ ぞれの運動を 行う。① ※動きのポイ ントを確認す る。 【体を移動す る運動】 【用具を操作 する運動】	○グルーブに 分かれて、これ まで行った基 本的な動きを 屈見合わせた 運動を行う。	バランスの 良い体力を 身につける ために更に いろいろな 運動にチャ レンジしよ う。
		○学習のめあてを確認し、次時のめあてを立てる。					
関		③	②	①			
思	②				①		
運		①				②	③

具体的な評価規準	運 動	関心・意欲・態度	思考・判断
	①場に応じてバランスをとったり、移動したりする基本となる動きができる。 ②場に応じて用具を操作したり、力試しの動きをしたりする基本となる動きができる。 ③場に応じて基本となる動きを組み合わせた動きができる。	①体づくり運動に進んで取り組んでいる。 ②運動の順番やきまりを守って取り組んでいる。 ③友達と協力して、用具の準備や片付けをしている。 ④場や周囲の安全に気を付けて運動している。	①運動の行い方を理解している。 ②友達のよい動きを見つけ、自分の動きに取り入れている。 ③基本的な動きをもとに、動きを工夫している。 ④基本的な動きを組み合わせた動きで、既習事項をもとに動きを工夫している。

4 研究の視点に基づいての成果（○）と課題（△）

ねらいの明確化

○新体力テストの結果から、教師は学級としての、そして児童は自分自身の課題を把握し、その課題に応じた授業を計画したため、教師と児童がともにねらいを明確にして授業に臨むことができた。

○子どもたちの実態に応じて、単元計画の通りではなく、毎時間テーマを設定して授業することにした。「すばやさ」「バランス」など、毎時間意識することをテーマにすることで、子どもたちにとってわかりやすい活動になった。

△体づくり運動の授業をする際、明確なテーマを持たせることが難しい。

指導法の工夫改善

○様々な運動の場があったことで、運動量を確保することができた。

○タブレット活用は効果的だった。

△タブレットで子どもたちに視覚的に理解させるのは大事だが、子どもどうしの伝え合いも大切にしたい。子どもどうしがお互いに伝え合い学び合う場を設定したい。

△短時間でもいいので、子どもどうしで伝え合う場、アドバイスし合う場がほしい。

△安全にも配慮した教具の選びが必要である。



評価の工夫

○工夫された振り返りカードを作成し、それを評価へ活用していた。

△評価計画したものをどう組み込んでいくか。組み込まれていない評価項目があった。

△ねらいと評価のつながりについて。

△評価規準はこれでいいのか今後検討していくことが必要。

体の柔らかさを高める運動について

○柔軟性を高めるためにワンミニッツエクササイズは効果的。今後も継続して取り組んでほしい。

△体の動きをもっと意識させる声かけがあってもよい。

△子どもたちが飽きないように、柔軟性を高める運動を継続していく方法を考えていく必要があるのではないか。

5 指導助言より

・体育の学力論について

⇒「わかる」「できる」。これに加えて、「運動量」と「みんなで」。この4つをそろえるのは難しいが、全てそろえることで子どもたちがいきいきと活動することができる。

・動きの良かった児童を全体で見せる。そうすることで、上手に運動するための視点を持つことができ、自然と子どもどうしの教え合いが始まる。

・タブレットは便利だが、子どもたちは自分の動きを見ているだけだったのではないか。自分の動きを確認した上で、動きを高めていこうと運動を工夫していく必要がある。

・「体ほぐし運動」の認識を間違えないように。

・体づくりで得た動きが生活に返っていくようにしていきたい。